

陳 述 書

平成27年10月5日

東京地方裁判所 御中

原告 桜井雄一郎

私は、ロサンゼルス市に38年間居住している日本人です。この度、朝日新聞に対し、謝罪広告と損害賠償として1万円を請求する訴訟の原告となりました。

私はアメリカにおいて日本人であることに誇りを抱いて生活してきました。

私どもは新1世と言われ、明治時代に日本から移民されたオリジナルの移民1世とは異なり戦後の平和な社会になってから移住をした新1世です。

ご承知のとおり、明治期に移民された1世は戦前、戦中、戦後を我々には想像もつかないご苦労され今の我々の世代に日本人の誇りを残してくれました。

その多大な苦労を踏みにじる如く、朝日新聞の偽報道は明治以来移住した全日本人の心を踏みにじるものです。

欧米では誇りの無い人間は軽蔑されます。日本人としての私の誇りは、日本が決して非人道的な国でないということが歴史から明らかだと言えるからです。

ただ、日本人の弱点は他人を思いやる心がありすぎることです。私もアメリカで生活してきて随分損をしてきました。誠実に行動すればいつかは分かってくれるという気持ちで暮らしてきましたが、最近の中国や韓国の行動を見るとそれが裏目に出ているような気がします。

朝日新聞が南京事件や吉田清治の慰安婦について嘘の話を大きく取り上げ、英字版でも報道したため、私たちアメリカ在住の日本人は非常に肩身の狭い思いをしてきました。

アメリカは自由の国ですが、真実を重んじません。嘘についてまで自分の国の悪を宣伝する人はいません。仮にいたらまともな社会人としては生きてはいけ

ません。

朝日新聞がやっていることは偽りなのだとアメリカ人の友人に説明しても日本の高級紙である朝日新聞がわざと嘘を書くとは信じられない、と反論されて一層腹の立つ思いをしてきました。昨年朝日新聞が嘘の記事をようやく取り消しましたが、そのことはアメリカではよほどの日本通しか知りません。この度朝日新聞が正式な謝罪記事を世界的に掲載し、損害賠償をすれば私たちアメリカ在住の日本人の名誉が回復されます。これが私が原告となった理由です。

そもそも日本人は規律正しく約束を守り嘘を言わない温和な性格であることでこのアメリカにおいても信用を得てきました。それが朝日新聞の報道により、狂った殺人鬼や性欲異常者のような印象を与えてしまいました。

友人に小学校に通っている子供がいますが、学校の教科書に従軍慰安婦の記載があり、それが元で苛めにあい、日本に帰国を余儀なくされた子供もいます。

私にも当地で生まれ育った2人の息子がおり、朝日新聞の報道の内容は嘘だと彼らには説明をして理解しておりますが、それでも十分に納得はしていないようです。この裁判、私たち原告が勝てば、彼らにも完全に説得出来ます。

第二次大戦前、朝鮮半島の人たちが日本の統治の下、日本人と同様の保護下にあったことを知らない人が大半です。慰安婦には朝鮮半島出身者よりも本来の日本人が多かったことも知りません。また、慰安婦が高収入を得ていたことも知らず、そのことを教えるとアメリカ人は皆ビックリします。朝日新聞は、そのような真実を報道しないばかりか、逆に日本人を貶める嘘の報道をしてきました。

我々個人の努力では限界があります。韓国や中国が国策のように嘘の宣伝しているなか、朝日新聞は先の大戦中には軍部に同調し日本国民を貶め、戦後平和は社会になり今度は日本国、世界中に居住する日本人を貶める行為は許されるものではなく、少しでも朝日新聞に良心があり日本企業という意識があれば、謝罪広告と損害賠償に応じるべきです。そうすれば日本と日本人の名誉が回復できます。

私は、朝日新聞が自己の非を認め反省し謝罪広告と損害賠償に応じるまで最後まで裁判で追及します。